


茨城県植物園等施設整備基本計画

(県植物園等リニューアル基本計画)

2024年1月
茨城県





目次

- 1 マーケット環境 ……02-13
- 2 現状分析 ……14-29
- 3 基本計画 ……30-63

1 マーケット環境

- (1) エリア特性
- (2) エリアの成り立ち
- (3) 観光特性
- (4) 主な産業特性[農業]
- (5) 人口特性
- (6) 交通特性
- (7) 競合施設
- (8) 宿泊施設
- (9) 温浴施設・道の駅・その他の施設

マーケット環境

エリア特性

茨城県は、関東地方の北部に位置し、平地が多く存在することから全国4位の可住地面積を有し、東京に近接し気候も温和で暮らしやすい環境。

【茨城県概要】

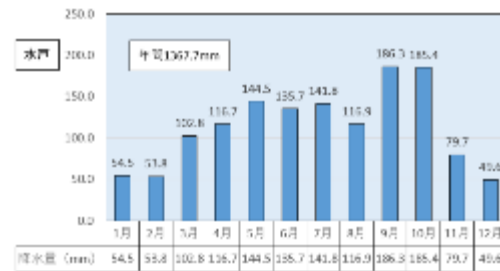
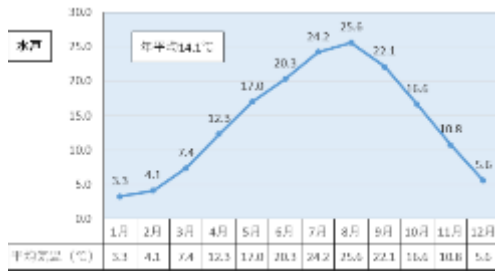
- 県の面積は、6,097.56平方キロメートル（令和5年現在）で全国第24位ですが、平坦であるため可住地面積は、3,888.61平方キロメートルと全国第4位の広さです。

■市町村

- 本県は水戸、日立、つくばをはじめとする44市町村です（令和6年1月現在）。



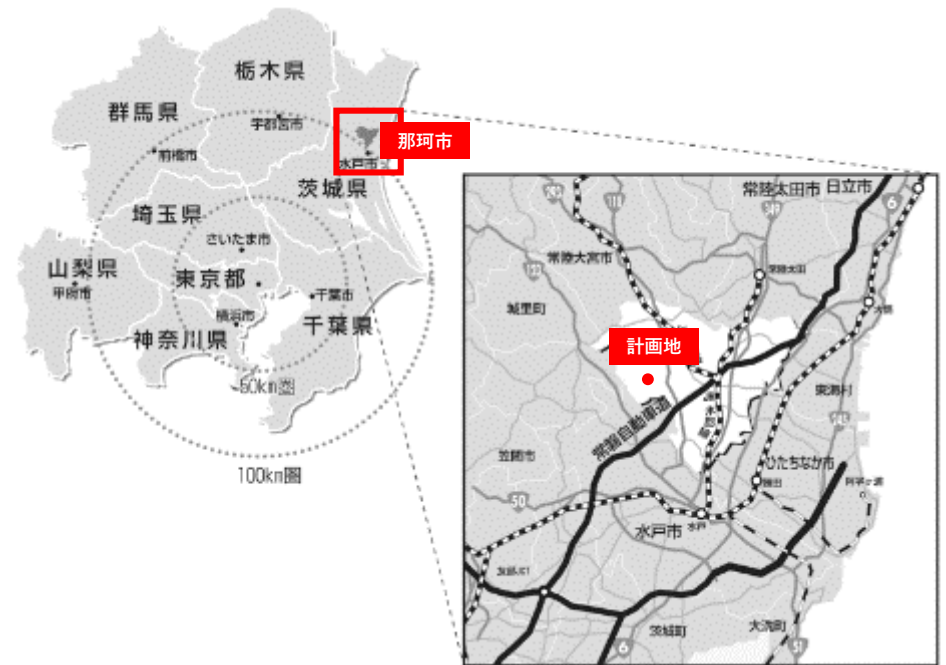
■月別平均気温（℃）県央地域（水戸市）
（1991年から2020年までの平均値資料：水戸地方気象台「水戸の平年値」）



茨城県植物園・茨城県民の森が立地している那珂市は、茨城県の中央よりやや北側に位置し、南は水戸市に隣接するほか、常磐自動車道那珂ICにより、大子町など県北山間地域の入口となっている。

【那珂市概要】

- 茨城県の中央よりやや北部に位置し、水戸市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、東海村に隣接している。
- 「いい具合に田舎」「いい那珂暮らし」をキャッチコピーにしており、都会過ぎず田舎過ぎないベッドタウンとして移住者を積極的に活動を行っている。



「土地広く、土が肥え、海山の産物もよくとれ、人びと豊かに暮らし、常世の国」として古くから人々が暮らしてきた地。江戸時代には水陸交通の要所として発展するなど、地方における政治、経済、文化の中心として栄えてきた。

【茨城県の歴史】

■ 県政の歩み

西暦	元号	茨城県の主なできごと	日本の主なできごと
前23,000		人が住み始める ・高萩市上君田遺跡 ・常陸大宮市山方遺跡	この頃、石を打ち欠いただけの石器が使用される
645年	大化元年	大化改新 これよりのち、多珂・久慈・那賀・茨城・筑波・新治の6国をあわせて常陸国とし、国衙を石岡に置く（結城、猿島、北相馬地方は下総国）	
713年	和銅6年		風土記撰進の詔が出される
723年	養老7年	この頃『常陸国風土記』が完成	
743年	天平15年	この頃石岡に常陸国分寺の造営が始まる	
939年	天慶2年	平将門、常陸国府などを襲い、将門の乱起こる	
1339年	延元4年 (暦応2年)	北畠親房、小田城で『神皇正統記』を著す	
1590年	天正18年	佐竹義宣、常陸を統一する	
1609年	慶長14	徳川頼房（家康の11子）水戸藩主となる（25万石）	
1657年	明暦3年	徳川光圀、『大日本史』の編さんに着手する	
1808年	文化5年	間宮林蔵、間宮海峡を発見する	
1842年	天保13年	徳川斉昭、偕楽園を開く	
1867年	慶応3年		将軍徳川慶喜、大政奉還を請う
1869年	明治2年		諸藩主、版籍奉還を行う
1871年	4年	県の統廃合により、茨城県・新治県・印旛県が誕生	廃藩置県
1872年	5年	茨城県庁を弘道館に開設	学制頒布
1873年	6年	水戸に県下初の共立小学校開校	
1874年	7年	土浦に新治県師範学校、水戸に拡充師範学校が開校	
1875年	8年	茨城県、新治県などが合併し、現在の茨城県が誕生	

「常陸国」

8世紀前半、奈良時代に編纂された常陸国風土記に「土地広く、土が肥え、海山の産物もよくとれ、人びと豊かに暮らし、常世の国のように」と記されているように、古来から多くの人々が豊かに暮らしてきました。

中・近世においても、この地域には有力な武将が居を構え、特に江戸時代には、水戸に徳川家の藩が置かれ、江戸に近く水陸交通の要所として発展するなど、地方における政治、経済、文化の中心として栄えていました。

「水戸藩」

慶長5（1600）年の関ヶ原の合戦をきっかけに、天下は徳川の世となりました。慶長14（1609）年、徳川家康公の11男・徳川頼房公が水戸城主になり、徳川御三家のひとつ・水戸藩ができました。

頼房は、水戸の城下町を整備し、今のまちの原型がつけられました。江戸時代の水戸は、関東では江戸に次ぐ都市となり、全国にその名が知られるようになりました。

歴代の藩主の中でも有名なのは、第2代藩主の徳川光圀公と第9代藩主の徳川斉昭公でした。光圀公は、笠原水道をつくり、下町に飲み水を届けたり、道を整備したほか、日本の歴史を本にまとめたりしました。

斉昭公は、幅広い学問を取り入れた国内で最大規模の藩校・弘道館や、偕楽園をつくりました。

◆ 水戸家

徳川家康の第11子頼房が初代の水戸藩主となり、尾張・紀伊藩とともに御三家と称されました。三家は、官位、儀礼などの格式は諸大名の中で格別で、水戸は従三位権中納言を最高の官位としておりました。中納言は、唐名で「黄門」ということから「水戸黄門」の称号も生まれました。水戸家は参勤交代が免除され、常府と称して江戸に常住し、必要な場合のみ帰藩する特殊な地位にありました。水戸家の江戸屋敷は、上屋敷の小石川邸のほか駒込・目白・本所小梅にも屋敷を持ち、その総面積は約60万㎡（東京ドームの約13倍）になります。



江戸時代（1688～1704年）の水戸城下町図

「水戸県から茨城県へ」

明治4（1871）年に水戸藩は廃止され、水戸県となりました。続いて、県の統廃合により、茨城県が誕生しました。

明治8（1875）年に新治県が廃止し、茨城県に合併。ほぼ現在の県域となりました。

茨城県はひたち海浜公園・偕楽園・袋田の滝など自然豊かな見どころが満載。観光客数はコロナ前に戻りつつあり、増加傾向にある。宿泊客よりも日帰り客の割合が87.5パーセントと圧倒的に多い状況となっている。

【茨城県内の観光】

■ 入込客数（延べ人数）

- 新型コロナウイルス感染症が落ち着き、観光需要の増加がみられる。

地域	2022年	2021年／対21年比	2019年／対19年比
茨城県	49,635千人	39,717千人／125.0%	64,434千人／77.0%
県北	6,363千人	5,080千人／125.3%	8,895千人／71.5%
県央	15,709千人	11,808千人／133.0%	20,020千人／78.5%
鹿行	4,324千人	3,237千人／133.6%	6,851千人／63.1%
県南	10,055千人	7,997千人／125.7%	13,781千人／73.0%
県西	7,491千人	5,994千人／125.0%	8,860千人／84.5%



■ 入込客の居住地別内訳（推計延べ人数）

- 県内観光客を除くと隣接する県からの観光客が多くを占める。

居住地	2022年／構成比	2021年／構成比	2019年／構成比
千葉県	6,519千人／13.1%	4,811千人／12.1%	8,725千人／13.5%
埼玉県	5,818千人／11.7%	3,496千人／8.8%	5,069千人／7.9%
東京都	5,182千人／10.4%	3,777千人／9.5%	6,811千人／10.6%
栃木県	3,889千人／7.8%	3,215千人／8.1%	4,000千人／6.2%
神奈川県	1,683千人／3.4%	1,180千人／3.0%	2,552千人／4.0%
福島県	1,137千人／2.3%	922千人／2.3%	2,017千人／3.1%
群馬県	914千人／1.8%	911千人／2.3%	1,569千人／2.4%
その他	1,371千人／2.8%	1,764千人／4.6%	3,293千人／5.1%
茨城県内	23,124千人／46.6%	20,640千人／52.0%	30,398千人／47.2%

※2022年、首都圏（東京都・千葉・埼玉・神奈川・群馬・栃木）の入込客数合計約2,400万人

■ 利用交通機関

- 県内と近隣からの観光客のため車での観光が多い。

区分	自家用車等	鉄道・乗合バス	貸切バス	その他
割合	81.5%	11.5%	1.4%	5.6%

※各表内の数値については端数処理を行っているため、合計と内訳が一致しない場合がある。

※出典：茨城県HP「観光客動態調査結果」より



国営ひたち海浜公園



偕楽園



袋田の滝

■ 入込客数（実人数）

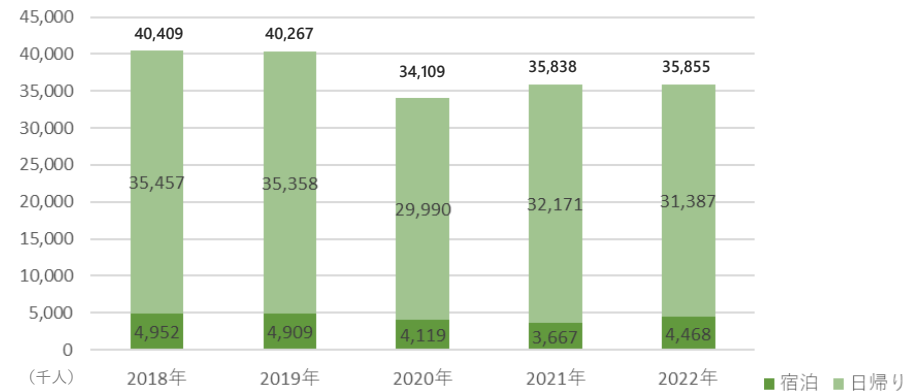
- 入込客（実人数）は、観光地点ごとの重複を除いた数値であり、1人の観光客が県内の複数の観光地点を訪れたとしても1人回と数えたものである。イベントの入込客数は含まない。2022年における入込客（実人数）の総数は約3,586万人（対前年比100.0%）となった。宿泊・日帰り別では、日帰り観光客の割合が87.5%と大半を占めている。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入込客数	40,409千人	40,267千人	34,109千人	35,838千人	35,855千人
対前年比	102.2%	99.6%	84.7%	105.1%	100.0%

■ 2022年通年の結果

推計項目	総数	宿泊			日帰り		
		計	県内	県外	計	県内	県外
観光目的	32,257千人	1,670千人	409千人	1,261千人	30,587千人	16,522千人	14,066千人
ビジネス目的兼観光	3,598千人	2,799千人	844千人	1,955千人	800千人	39千人	760千人
合計 (対前年増減)	35,855千人 (+17)	4,468千人 (+801)	1,253千人 (+119)	3,215千人 (+681)	31,387千人 (▲784)	16,561千人 (▲2,202)	14,826千人 (+1,418)
構成率 (前年の構成率)	100%	12.5% (10.2%)	—	—	87.5% (89.8%)	—	—

※出典：茨城の観光レクリエーション現況（令和4（2022）年観光客動態調査報告）より



※出典：茨城の観光レクリエーション現況（令和4（2022）年観光客動態調査報告）より

マーケット環境

主な産業特性[農業]

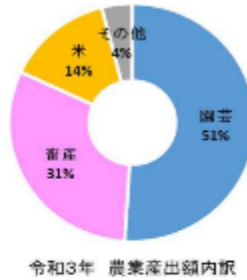
平野部という自然状況に加え恵まれた気候と都心より近い立地を活かし、農業は近郊農業が盛んとなっており、農業産出額全国3位、東京中央卸売市場における県産品の青果物取扱高は、19年連続で1位となっている。

【茨城県内の農業】

- 春から秋に雨が多く、冬季は降雨が少なく好天に恵まれており、このような気候条件を活かし、令和3年の農業産出額は全国3位で東京中央卸売市場における県産品の青果物取扱高は平成16年から19年連続1位である。
- 茨城県では「儲かる農業」を実現するため所得向上を目指す担い手を対象とした独自施策を展開し、デジタル技術を活用した革新的な取り組みを支援している。

■農業産出額と構成比

区分	年度	R2		R3	
		産出額	構成比	産出額	構成比
合計 (①+②+③)		4,417	100.0	4,263	100.0
耕種計 ①	耕種計	3,055	69.2	2,822	66.2
	米	756	17.1	596	14.0
	麦類	6	0.1	8	0.2
	雑穀・豆類	20	0.5	21	0.5
	園芸(野菜・果+穀+雑)	2,249	50.9	2,175	51.0
	いも類	362	8.2	366	8.6
	野菜	1,645	37.2	1,530	35.9
	果実	97	2.2	120	2.8
	花き	145	3.3	159	3.7
	工業農作物	8	0.2	7	0.2
畜産計 ②	1,270	28.8	1,311	30.8	
肉用牛	150	3.4	174	4.1	
乳用牛	211	4.8	217	5.1	
豚	397	9.0	373	8.7	
鶏	509	11.5	545	12.8	
其他畜産物	2	0.05	2	0.05	
加工農産物 ③	92	2.1	130	3.0	



※合計が総数と一致しないのは、四捨五入による。

■令和3年品目別産出額順位

全国第1位	13品目	梨、かんしょ、メロン、ピーマン、れんこん、ほしいも、みずな、こまつな、切り枝、チンゲンサイ、葱、くり、せり
全国第2位	5品目	レタス、はくさい、みつば、らっかさい、日本なし
全国第3位	10品目	ねぎ、にら、スイートコーン、もやし、マッシュルーム、みょうろ、こんにゃく、いも、ほうれんそう、しそ、そらまめ

※出典：令和3年生産農業所得統計

■農業を表す主要指標

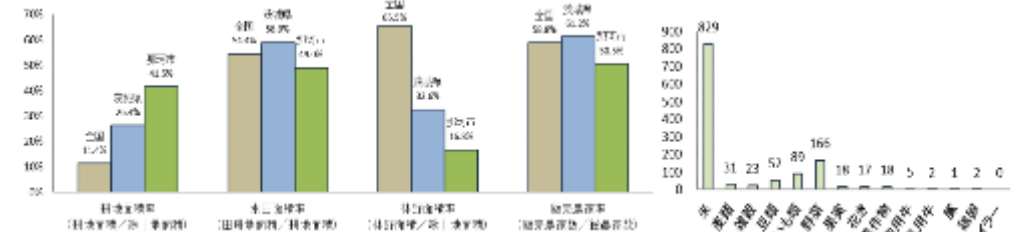
区分	表頭数	単位	比率
農業従事者数(千名)	41	1,028	1
農業経営体数(千名)	45	1,090	2
うち主業経営体数(千名)	30	291	1
基幹的農業従事者数(千人)	20	1,060	2
農業産出額(億円)	4,369	30,000	2
生産農業所得(億円)	2,066	30,000	2

※出典：*1 2020年農林業センサス
 販売農家：経営耕地面積30a以上又は農産物販売金額50万円以上の農家
 主業農家：農家所得の50%以上が農業所得で、65歳未満の自営農業従事者60日以上の上世帯員がいる農家。
 基幹的農業従事者：農業就業人口のうち、仕事として主に農業に従事した者。
 *2 生産農業所得統計(令和3年農業産出額及び生産農業所得全国及び都道府県別)

【那珂市の農業】

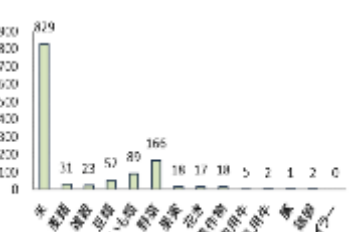
- 那珂台地という平野部の自然条件に加え、気候的にも恵まれた環境を活かし那珂市の面積の40%以上を田畑が占める農業が盛んな地域。

■農林業面積率



※出典：農林水産省HP「市町村の姿」グラフと統計でみる農林水産業より(耕地面積は令和4年面積調査/農業経営体数については2020年農林業センサス)

■農業経営体数



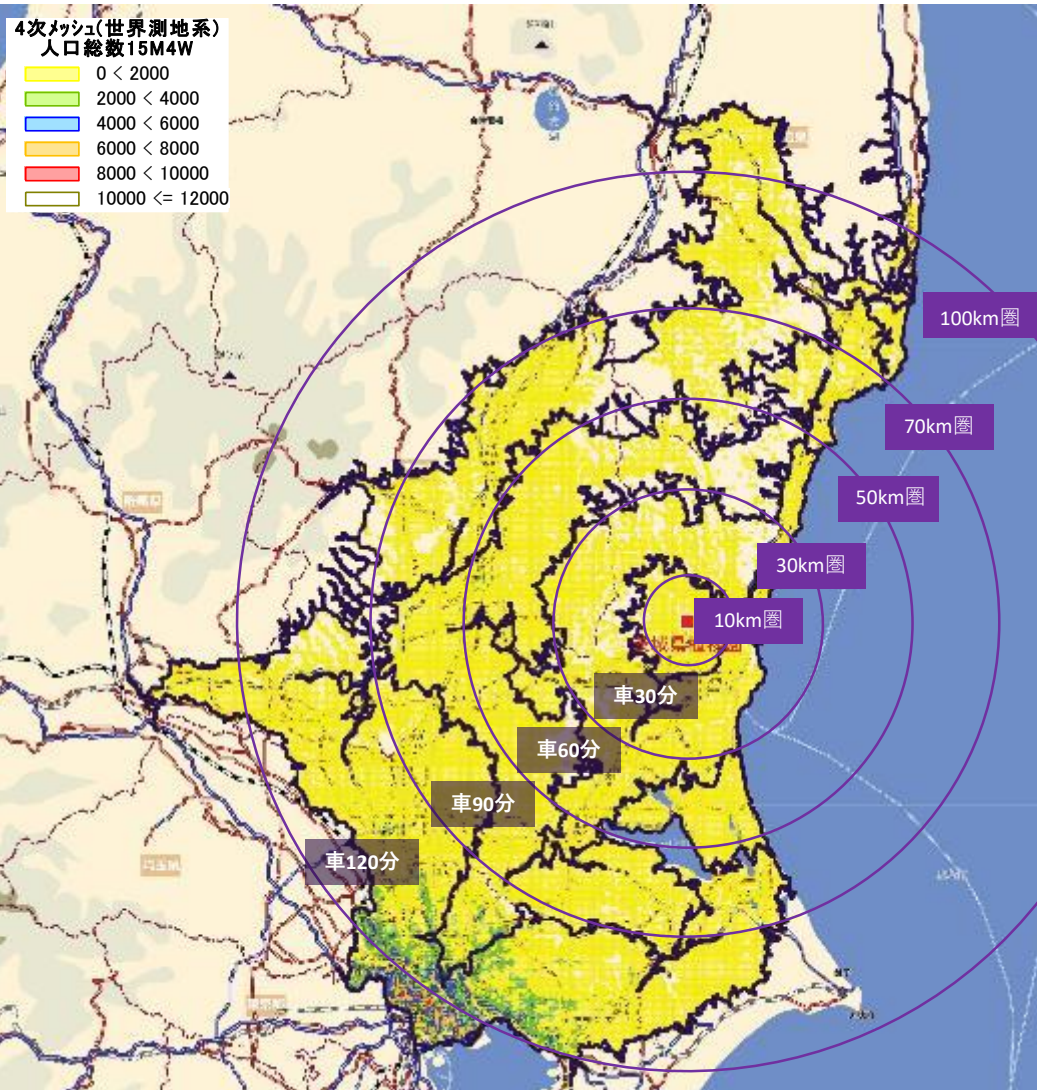
マーケット環境

人口特性

計画地エリアには、薄く広く人口が分布しており、北に行くほど分布がまばらとなっている。近年、人口減少に直面しており、労働力人口の減少とともに高齢化が顕著に進行している。

【商圈人口分布】

- 計画地エリアには、薄く広く人口が分布しており、北に行くほど分布がまばらとなっている。
- 100km圏には、世界でも有数の人口密集エリアである東京都まで届く。

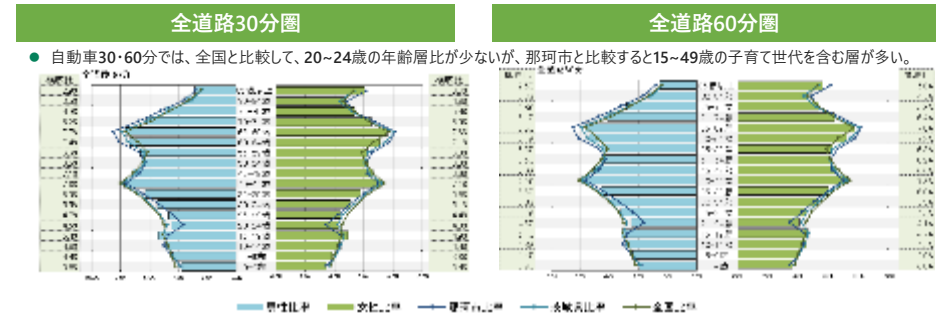


【商圈別人口増数】

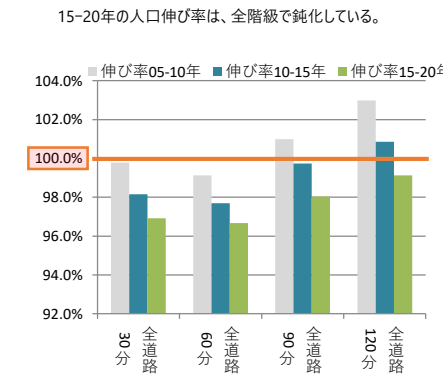
車30分圏の人口数は、5年毎の比較で近年、下落し続けており、2005年比で約15千人（約3%）減少しており、人口減少している状況が伺える。

年	全道路30分		全道路60分		全道路90分		全道路120分		那珂市 実数	茨城県 実数	那珂市 茨城県 比
	実数	密度	実数	密度	実数	密度	実数	密度			
2005年	284,768	100%	1,581,431	100%	4,893,196	100%	18,118,380	100%	55,922	2,974,283	1.9%
2010年	284,156	99.8%	1,567,469	99.1%	4,941,345	101.0%	18,658,748	103.0%	55,344	2,972,090	1.9%
2015年	278,909	98.2%	1,531,200	97.7%	4,927,987	99.7%	18,817,815	100.9%	55,475	2,916,976	1.9%
2020年	270,291	96.9%	1,480,146	96.7%	4,831,325	98.0%	18,652,284	99.1%	54,627	2,816,104	1.9%

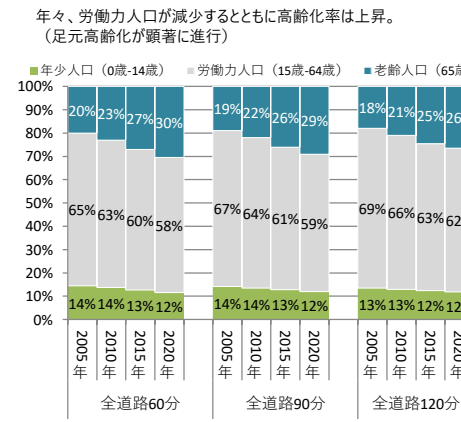
【年齢別人口構成比】



人口伸び率比較（5-10/10-15）



世代別構成比



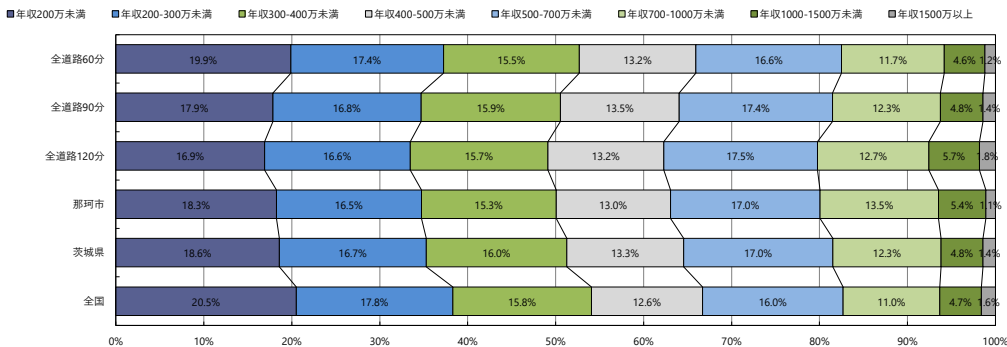
マーケット環境

人口特性

那珂市は、1次産業に従事する人口比が高い。住宅の建て方としては戸建てが多く、持ち家比・20年以上の居住者比が高い。在学者で見ると小中学生の比率が高い。

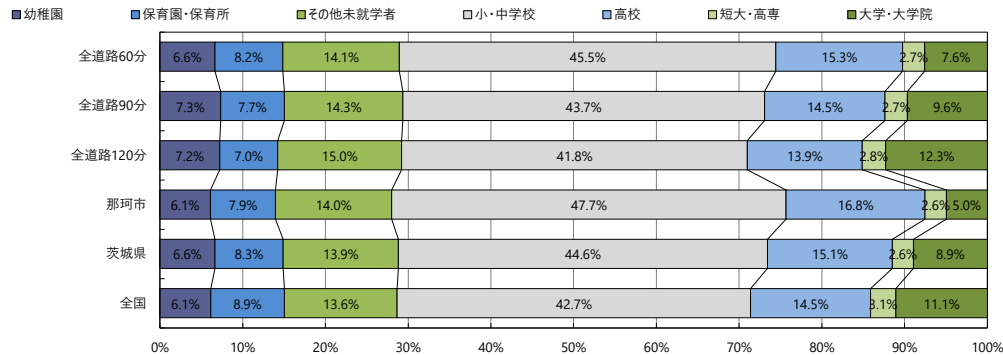
年収階級別世帯数：世帯総数

● 全道路60分圏・那珂市年収300万円以下の比率が40%未満となっており、全国と比較して、わずかながら年収が低い層が少ない。



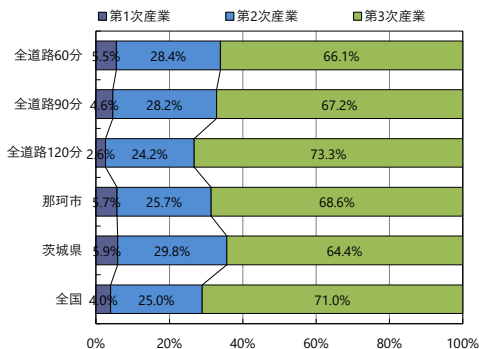
教育状態別人口（在学者）

● 全道路60分圏・那珂市の小・中学生・高校生の比率は全国・茨城県と比較して、半数の60%を超え、高いエリア。



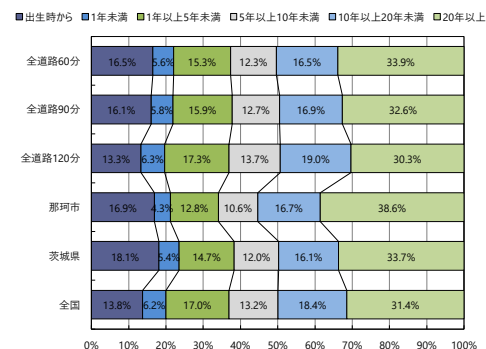
産業分類別就業者人口

● 全道路60分圏・那珂市は、1次産業に従事する比率が高い



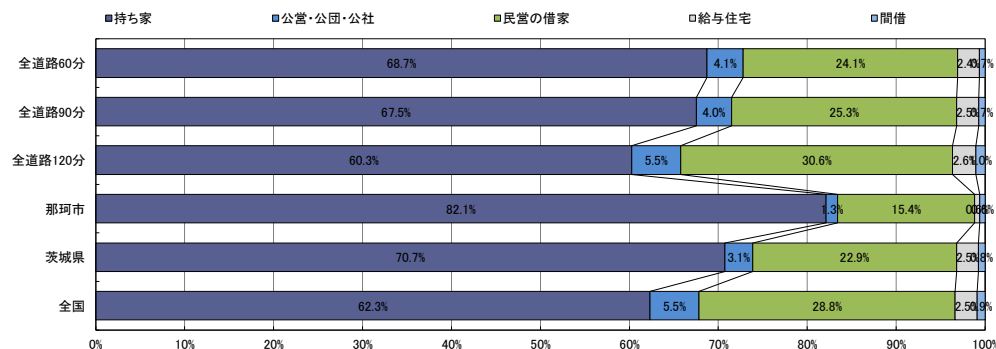
居住期間人口

● 那珂市では20年以上の居住者が比率が高い。



住宅の建て方別世帯比率

● 全道路60分圏・那珂市では、全国と比較して、持ち家比率が高い。



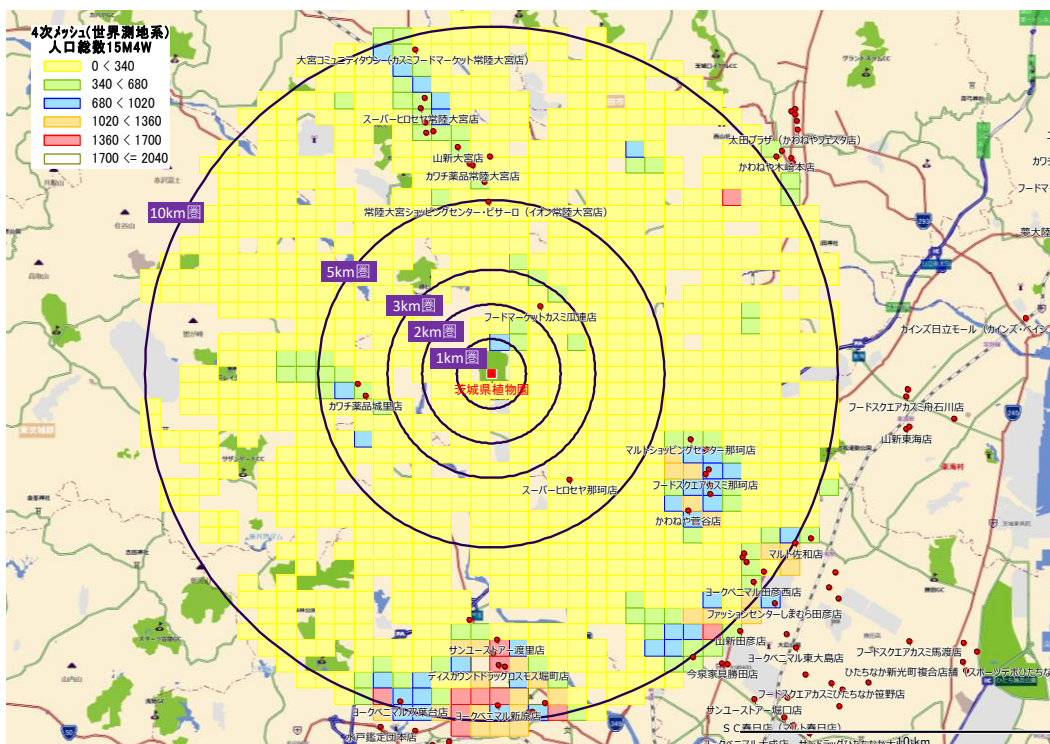
マーケット環境

人口特性

計画地から南側の水戸中心部・東南側・北側のロードサイドに人口が集まっているエリアが存在、付帯する形でスーパーを始めとする大型商業が存在。足元の世帯は増加しているが人口は減少しているエリア。

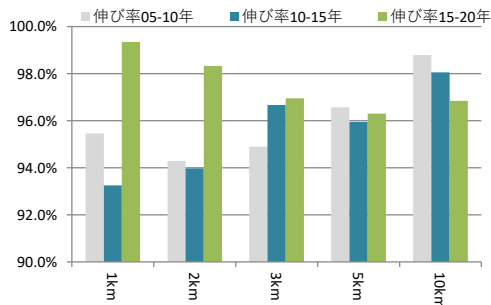
【商圈人口分布】

- 10km圏、薄く広く拡がりを見せており水戸の中心部・幹線道路・鉄道沿いに人口が集中しているエリア。



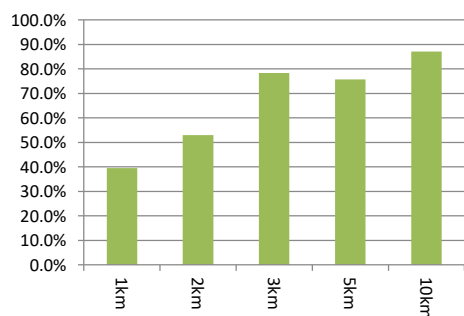
人口伸び率

- 足元1、2kmで15-20年の伸び率が顕著に高い。



昼間人口比率(夜間人口=100)

- 全階級で昼間人口比率は、100%を下回る。3kmでは特に低い。



【人口世帯数】

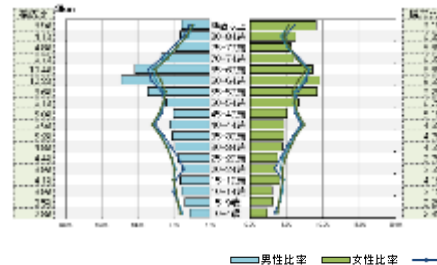
- 10km圏までのすべての階級で、2005年から2020年までで世帯は増加しているが、人口は減少している。

		1km		2km		3km		5km		10km		那珂市	茨城県	全国
		実数	密度	実数	密度	実数	密度	実数	密度	実数	密度	実数	実数	実数
人口総数(人)	2005年	765	244.2	4,242	338.3	9,400	333.3	28,849	368.2	179,798	573.7	55,922	2,974,283	127,767,982
	2010年	730	233.1	3,999	319.0	8,920	316.3	27,858	355.6	177,606	566.7	55,344	2,972,090	128,057,352
	2015年	681	217.3	3,758	299.8	8,622	305.7	26,726	341.1	174,136	555.6	55,475	2,916,976	127,094,745
	2020年	677	215.9	3,695	294.7	8,359	296.4	25,736	328.5	168,623	538.1	54,627	2,816,104	124,088,227
世帯総数(世帯)	2005年	241	76.8	1,341	107.0	2,888	102.4	9,021	115.1	64,562	206.0	18,449	1,032,060	49,566,204
	2010年	255	81.3	1,378	109.9	2,946	104.5	9,293	118.6	66,911	213.5	19,275	1,089,152	51,950,504
	2015年	252	80.3	1,387	110.6	2,993	106.1	9,378	119.7	68,843	219.7	20,419	1,124,349	53,448,685
1世帯当たり人員(人)	2015年	2.71	-	2.71	-	2.88	-	2.85	-	2.53	-	2.72	2.59	2.38
	対象範囲(km)	3.13	-	12.54	-	28.20	-	78.35	-	313.39	-	97.82	6,093.07	373,195.82

【年齢別人口構成比】

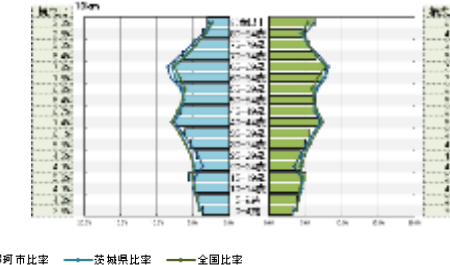
3km圏

- 全国・茨城と比較して、男女ともに50代後半・60代が多い。



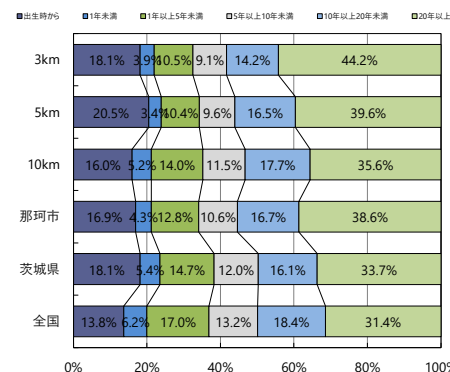
10km圏

- 全国・茨城と比較して、男女共に20代・30代の層が少ない。



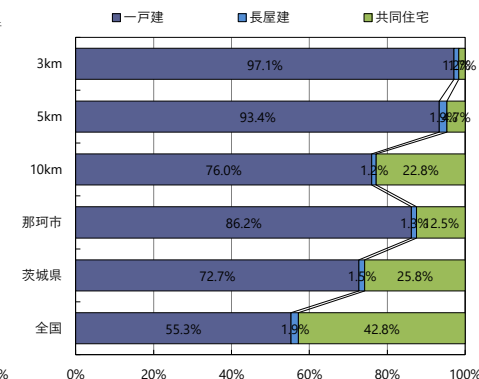
居住期間人口

- 3km～那珂市は、20年以上の居住期間人口比が高い。



建て方別構成比

- 3km～那珂市は、戸建て比が圧倒的に高い。



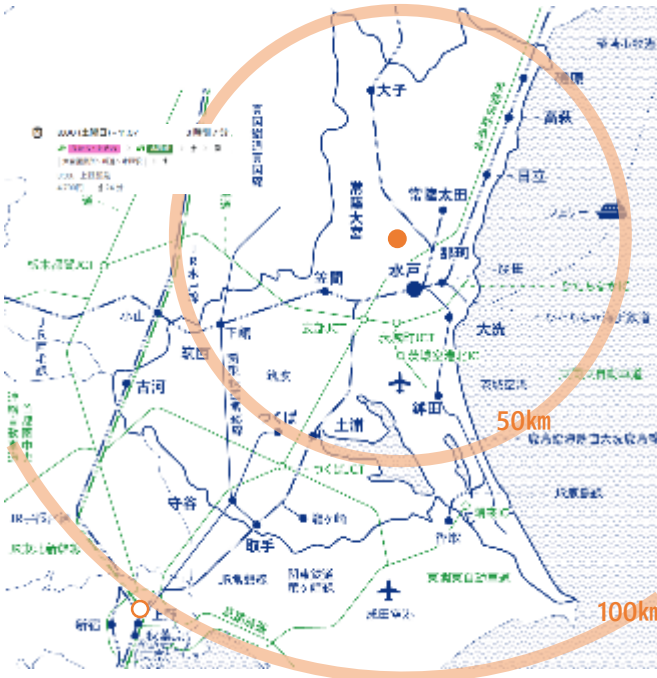
マーケット環境

交通特性

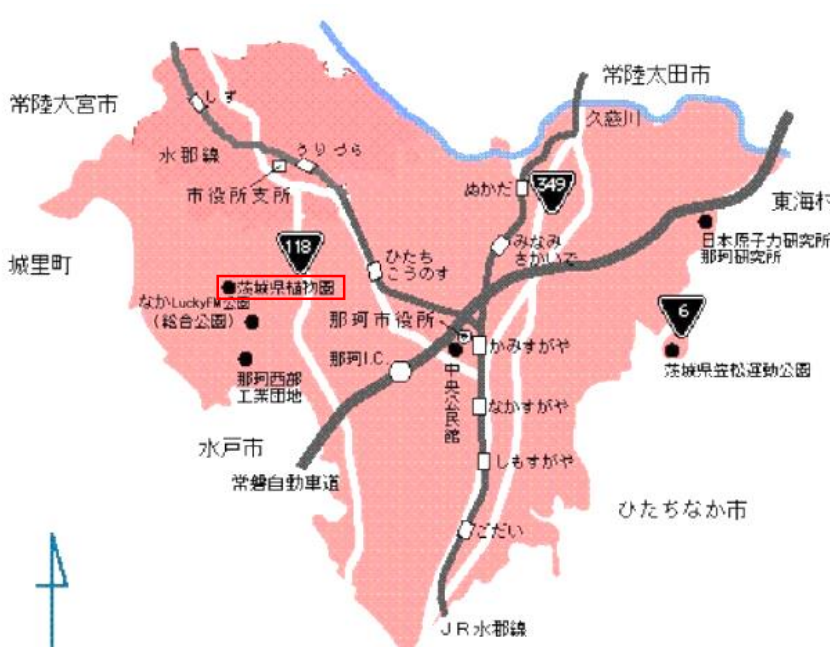
東京から計画地までの直線距離は約100km、車での移動時間は1時間30分を超えるが、高速道路下車後も県道にてアクセスしやすい。一方、公共交通機関でのアプローチは乗換・徒歩を含み、不便な状況。

【都心部からの移動】

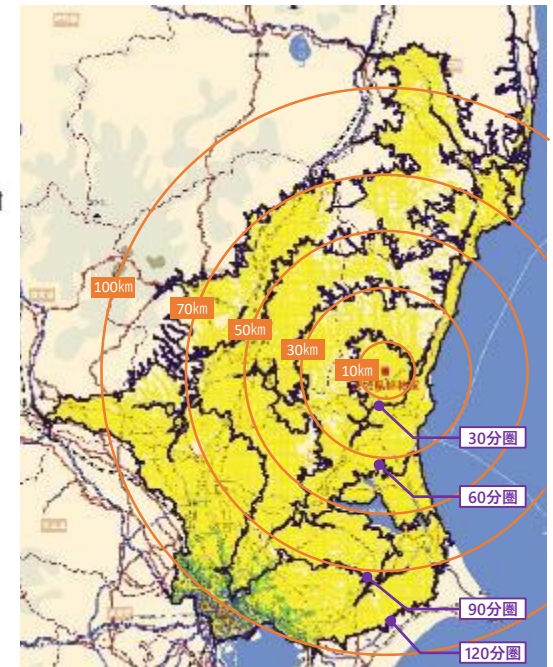
■ 県内の交通網



■ 那珂市内の交通網



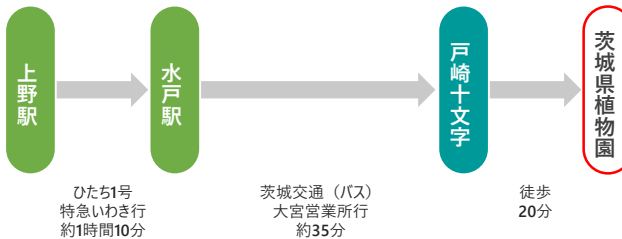
■ 車距離圏



【電車移動】

- 市内にはJR水郡線の駅が9駅あり、本計画地の最寄り駅は常陸鴻巣駅。
- 上野からの電車で移動は約2時間30分

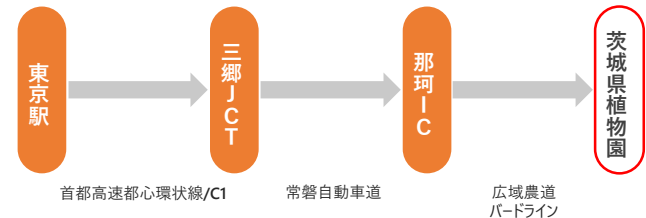
■ 電車ルート（土曜日AM7:00出発の場合）



【車移動】

- 市内には常磐自動車道や3本の国道が通っている。
- 東京からの移動距離は約120kmで移動時間は約1時間30分。

■ 車ルート（高速道路使用の場合）



東京-茨城県植物園
直線距離106km
移動距離118km

【20km圏の公園施設】

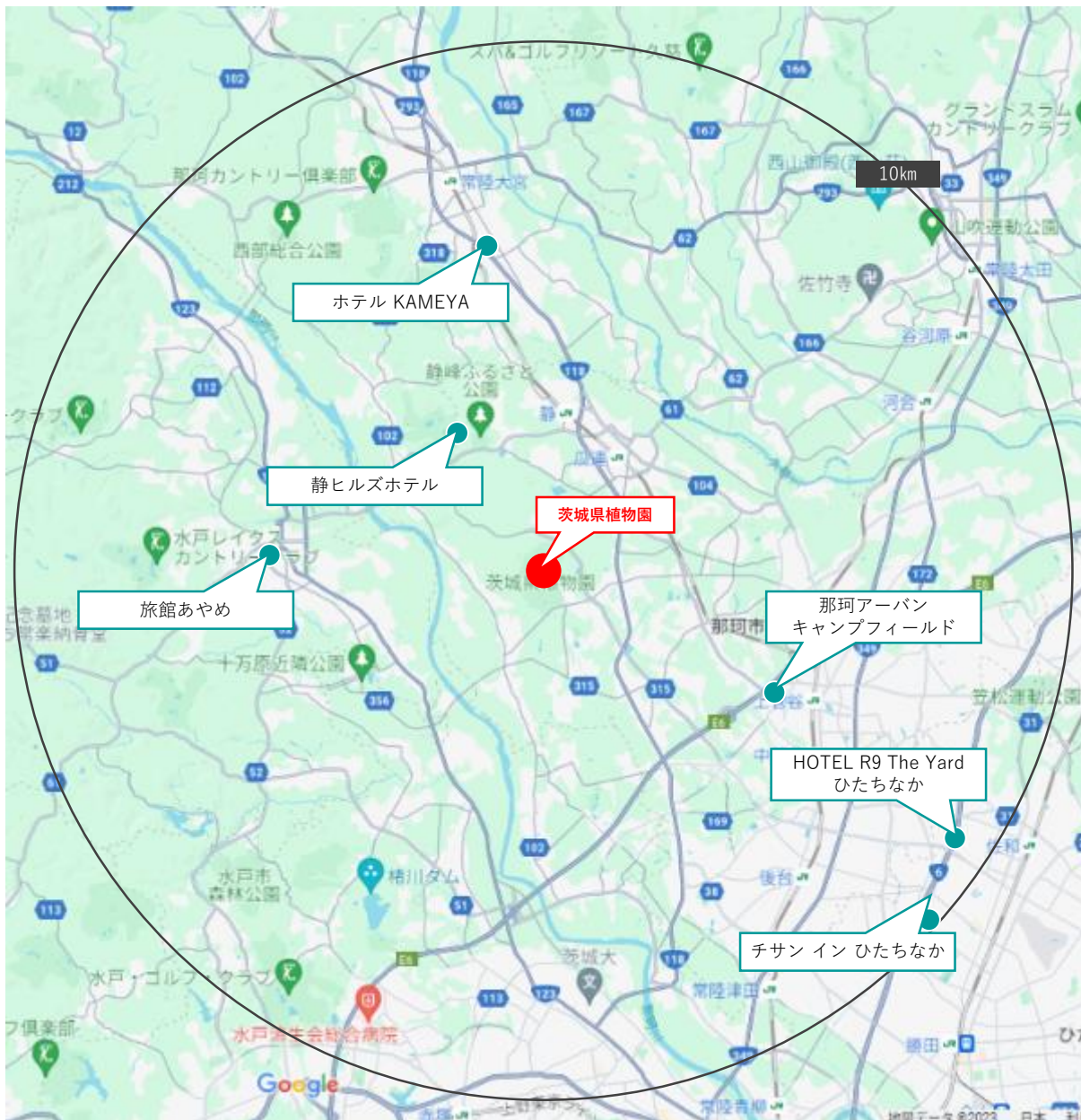


施設名（住所）	入園料	施設概要
那珂市		
茨城県植物園 (茨城県那珂市戸崎4589)	一般320円 (団体200円) 70歳以上160円 (団体100円)	植物の知識が学べる憩いの場として昭和56年に開園。約600種、約5万本の植物と噴水、花壇がある沈床園、回遊式庭園の岩石園、動物をかたどった植物造形園、たくさんの種類を集めたカエデ園、バラ園、ツバキ園などのほか、気軽に休める広々とした芝生広場も人気。
なかLuckyFM公園 (那珂総合公園) (茨城県那珂市戸崎428)	入園料：無料 各施設：有料	市民のふれあいの拠点として平成6年に完成。野球場、アリーナ、サブアリーナ、屋内温水プール、テニスコート、多目的広場などがある総合公園。歴史民俗資料館もあり、那珂市に関わる資料が展示されている。
静峰ふるさと公園 (茨城県那珂市静1720-1)	入園料：無料 各施設：有料	12haある公園で、「日本さくら名所100選」にも選ばれた桜の名所。幼児用遊具、健康器具、親水施設、ノルディックウォーキングコース、グラウンド・ゴルフ場もあり、年間を通して多世代で楽しめる。
水戸市		
七ツ洞公園 秘密の花苑 (茨城県水戸市下田井町2243)	無料	英国法人の設計、英国建材を使用し、自然風景のように作庭された珍しい本格的な英国風景式庭園。
十萬原近隣公園 (茨城県水戸市扇が原1丁目1)	無料	公園のシンボルともいえる巨大な複合遊具と長いローラーすべり台がある。
水戸市 森林公園 (茨城県水戸市木葉下町)	入園料：無料 各施設：有料	松林、雑木林、湧水や溜池など、豊かな里山の自然に恵まれた公園。園内には恐竜等の模型が14体が設置されている。
水戸市植物公園 (茨城県水戸市小吹町504)	大人300円(250円) 小中学生・県央地域60歳以上150円(100円)	テラスガーデン、鑑賞大温室、熱帯果樹温室、植物館、芝生園、ロックガーデン等からなる洋風庭園。
石岡市		
いばらきフラワーパーク (茨城県石岡市下青柳200番地)	大人900~1500円 小人300~500円 ※季節によって価格変動 ペット200円	約30haの「花と緑の楽園」のテーマパーク。1985年、筑波研究学園都市で開催された国際科学技術博覧会にあわせ、花き文化の向上と石岡市への観光客誘致を目的に開園した。
ひたちなか市		
国営ひたち海浜公園 (茨城県ひたちなか市馬渡 字大沼605-4)	一般450円(290円) 65歳以上210円(210円) 2日通し券 500円(350円) 250円(250円)	花と緑に囲まれた国営ひたち海浜公園。開園面積約215haの広い園内は7つのエリアに分かれており、自然の中で楽しめるレジャースポットや花畑がある。
つくば市		
筑波実験植物園 (茨城県つくば市天久保4丁目1-1)	一般・大学生320円(250円) 高校生以下無料	植物の研究機関である。通称、つくば植物園。敷地面積は14ha。

マーケット環境

宿泊施設

【10km圏の宿泊施設】



施設名 (住所)	運営会社	施設概要
那珂市		
静ヒルズホテル (茨城県那珂市静1678)	森ビルゴルフリゾート株式会社	ホテルとゴルフ場が一体になった森ビルグループ唯一のアウトドアリゾート。手軽にアウトドア体験ができるキャンプやバーベキューが楽しめる。
那珂アーバンキャンプフィールド (茨城県那珂市滝黒786-1)	株式会社アカラ	那珂市初のキャンプ場。市街地から近く、身近な場所で自然を楽しむ「アーバンアウトドア」をコンセプトとしたオートキャンプ場。
ひたちなか市		
HOTEL R9 The Yard ひたちなか (茨城県ひたちなか市稲田1059-27)	株式会社デベロップ	旅行やビジネス利用に最適で充実した設備が備わっている、全国拡大中のコンテナタイプのホテル。
チサン イン ひたちなか (茨城県ひたちなか市田部950-11)	ソラーレ ホテルズ アンド リゾーツ株式会社	ビジネスや観光にも便利なロードサイド型ホテル。
常陸大宮市		
ホテル KAMEYA (茨城県常陸大宮市上村田404-1)	ホテルカメヤ	ビジネス中心、周辺工業団地の方ご用達。
東茨城郡城里町		
旅館あやめ (茨城県東茨城郡城里町石塚1168)	—	部屋数6室の小さな旅館。



静ヒルズホテル



那珂アーバンキャンプフィールド



HOTEL R9 The Yard
ひたちなか



チサン イン ひたちなか

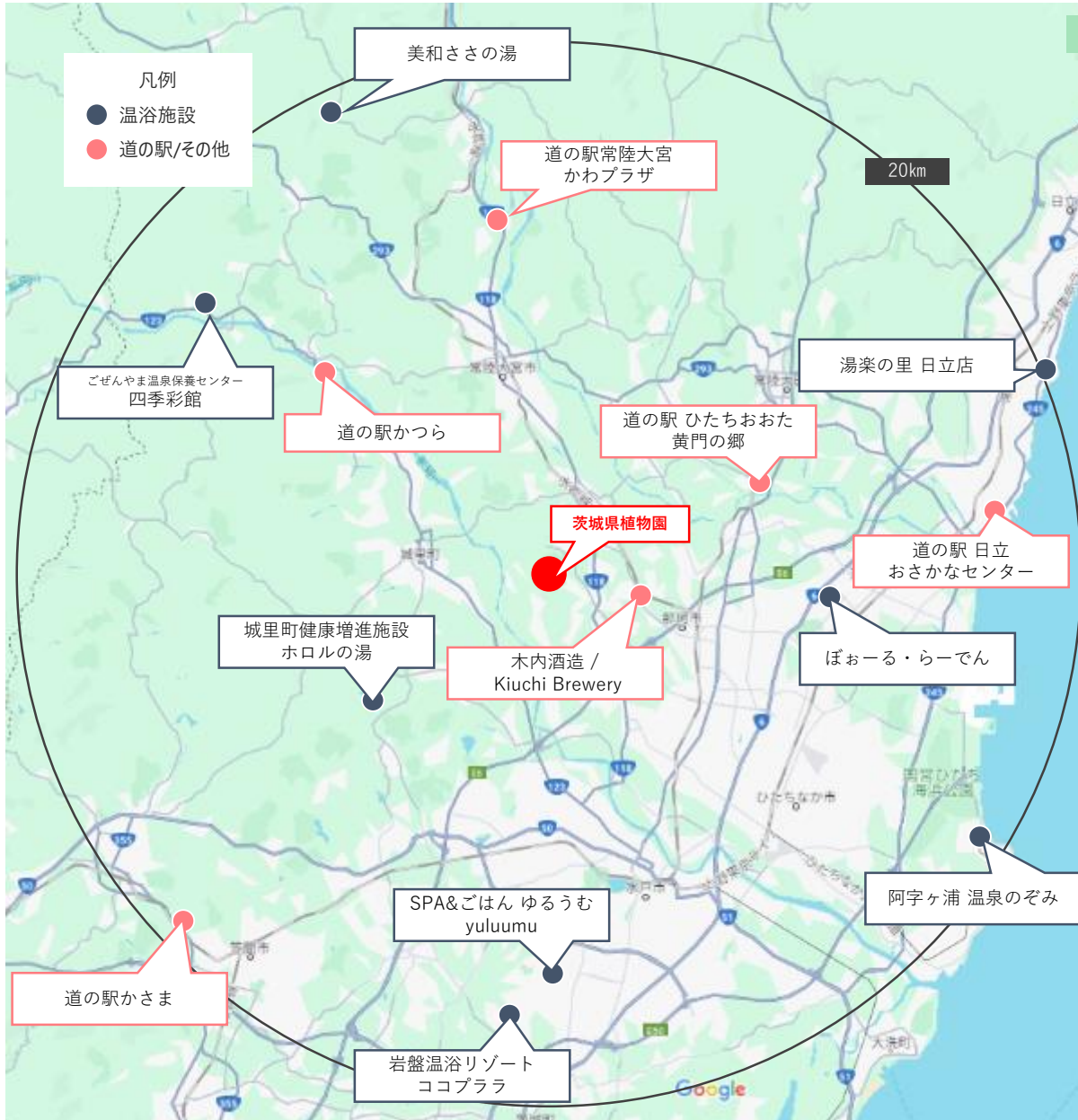


ホテル KAMEYA



旅館あやめ

【20km圏の温浴・道の駅・その他の施設】



施設名 (住所)	入園料	施設概要
那珂郡東海村		
ぼおーる・らーでん (茨城県那珂郡東海村舟石1607-29)	フリー：3,300円 入会金：11,000円	予約制の美容と健康をテーマにしている酵素浴。
東茨城郡		
城里町健康増進施設 ホロルの湯 (茨城県東茨城郡城里町下古内1829-3)	平日 (休日) 大人：880円 (1,100円) 小人：440円 (550円)	大浴場&露天風呂、温水プールを完備し、家族やグループで一日中楽しめる。
岩盤温浴リゾート ココブラ (茨城県東茨城郡茨城町桜の郷1100)	入浴・岩盤浴コース 1,580円 (1,680円) 入浴880円 (980円) 小学生480円 (580円)	地域最大級の岩盤浴施設5部屋、11種類、77床。
水戸市		
SPA&ごはん ゆるうむ yuluumu (茨城県水戸市小吹町2624-1)	大人：1,780円 (1,880円) 小人：780円 (880円)	2023年11月オープン。8段タワーサウナや4つのサウナ、3種の水風呂とボタニカルがテーマのレストラン、宿泊棟が併設する。
ひたちなか市		
阿字ヶ浦 温泉のぞみ (茨城県ひたちなか市阿字ヶ浦町3290)	一般：980円 (1,250円) 子供：600円 (700円)	地下1,504m掘削して湧出させた自家源泉。
日立市		
湯楽の里 日立店 (茨城県日立市河原子町1丁目1-6)	大人：850円 (950円) 子供：440円 (540円)	太平洋一望の露天風呂が自慢の日帰り温浴施設。
施設名 (住所) 運営会社 施設概要		
那珂市		
木内酒造 / Kiuchi Brewery (茨城県那珂市鴻巣1257)	木内酒造 (株)	1823年に茨城県那珂市で創業した木内酒造。飲食事業を展開し、関東に12店舗を運営。
常陸太田市		
道の駅 ひたちおおた 黄門の郷 (茨城県常陸太田市下河合町1016-1)	常陸太田市・常陸太田産業 振興(株)	2016年7月開業。国土交通省より重点道の駅にも選定された、地域の情報発信・交流拠点。
常陸大宮市		
道の駅常陸大宮 かわプラザ (茨城県常陸大宮市岩崎717-1)	元気な郷づくり株	2016年3月開業。清流久慈川のほとりに位置し、自然と触れ合える交流の場。
日立市		
道の駅 日立 おさかなセンター (茨城県日立市みなと町5779-24)	久慈町漁協	1992年開業の「日立おさかなセンター」が道の駅に変更。日立市の南玄関口に位置。
東茨城郡城里町		
道の駅かつら (茨城県東茨城郡城里町御前山37)	株式会社桂ふるさと振興センター	1992年に特産品直売センターとして開設し、1993年4月県内で第1号の道の駅として誕生。
笠間市		
道の駅かさま (茨城県笠間市手越2番地1)	株式会社 道の駅笠間	2021年9月開業。「笠間のゲートウェイ」をコンセプトに笠間市の魅力を発信する。

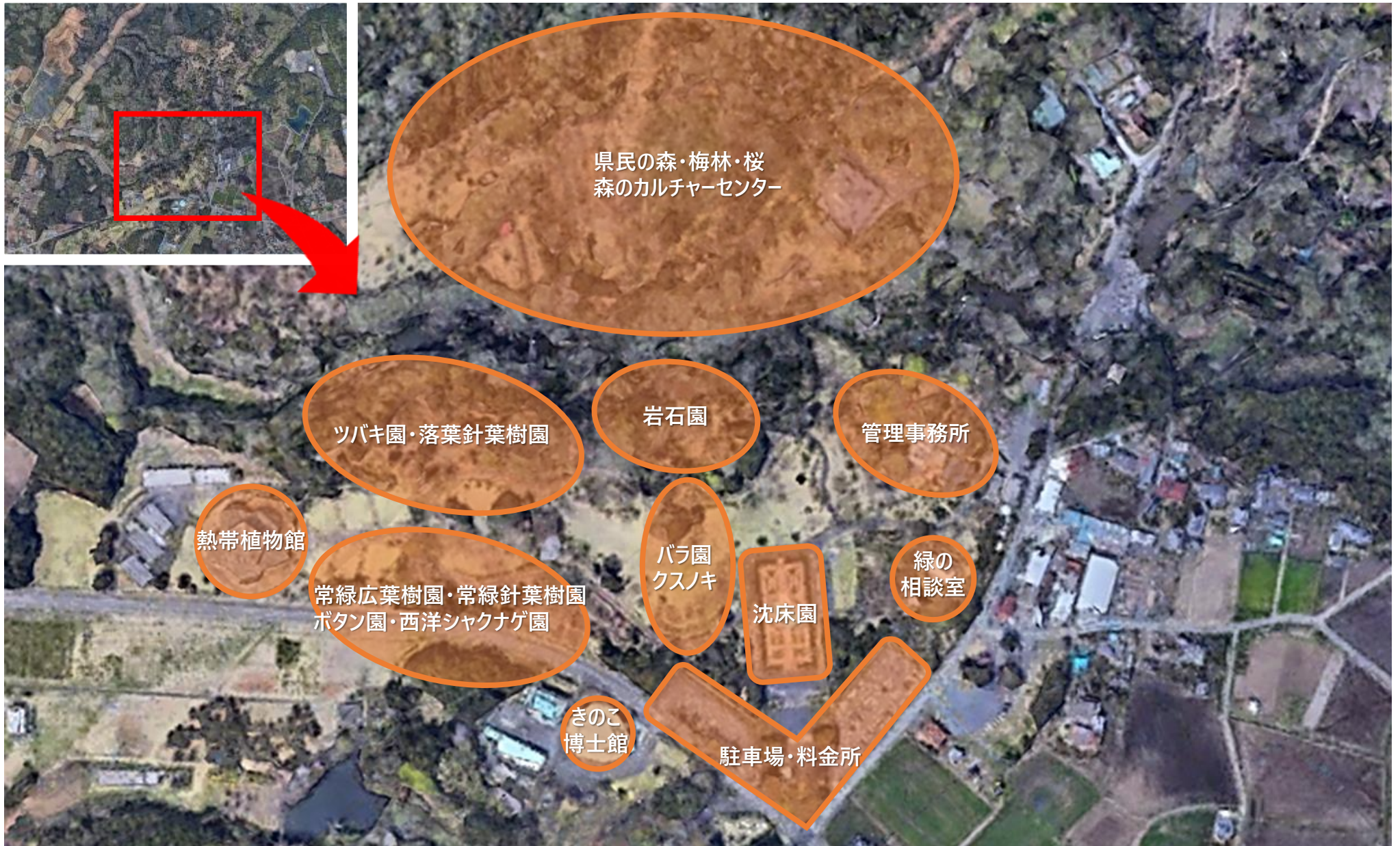
2 現状分析

- (1) 計画地特性
- (2) 各エリア
- (3) 各施設
- (4) まとめ

現状分析

各エリア

【現状航空写真・各エリア】



駐車場・料金所



■現状・改善案

現状

目線の高さに緑が少なく、駐車場も一般的なアスファルト舗装で、寂しい印象。

現状

料金所が経年等の影響により色褪せ、古びたような印象。

改善案

施設に入場する前の導入部分であるため、利用者が視認しやすい位置により植物園の雰囲気が感じられる演出を行えば、通りがかった方々への印象付け及びそこからの集客にも繋がるのが予想される。

改善案

利用者の期待感を高めることや、SNSでの宣伝効果へ繋げるためにも、**一目で華やかさや賑わい、植物園らしい雰囲気を感じられるようなエントランスの新設が必要。**

駐車場



料金所



沈床園



■ 現状・改善案

現状

料金所横の階段と沈床園入口の階段と間の道がかなり広い。

現状

沈床園の前に、利用者を出迎えるように茨城県植物園の看板があるが、退場時に見える風景はその看板の裏や前頁の料金所で寂し気。

現状

真ん中に大きな噴水がある広場となっており、レトロな印象。

改善案

歩を進めるのが楽しくなるような演出を行うため、利用者が通る路を囲うように、**緑豊かで特別感のあるガーデンを新設**することを検討。

改善案

満足度を高めるためにも、**退場する利用者へ向けた魅せ方を検討**する必要がある。

改善案

入場後一番最初に利用者が通る場所なので、施設全体の起点としての役割をもつ場への改修が好ましい。集いの場となる**リラックススペース**や、レストランやカフェなどの**飲食スペース**が考えられる。また森林散策・アクティビティなどの後に、汗を流すことのできる**温浴施設の需要も見込まれる**。

沈床園とその前の広い道



茨城県植物園の看板



退場時に見える風景



常緑広葉樹園・常緑針葉樹園・ボタン園・西洋シャクナゲ園・ツバキ園・落葉針葉樹園



■現状・改善案

現状

ボタン園・西洋シャクナゲ園・ツバキ園は、花が咲いていない季節は寂しげな印象。

改善案

既存の植物を活かしつつ、プラスアルファとして季節ごとの花の追加等に関して検討の余地があると思われる。

現状

常緑広葉樹園・常緑針葉樹園・落葉針葉樹園は、道から木までが離れていることもあり、意識を向けられづらい。

改善案

利用者が自然や木々の特徴をより一層体感できるようにな仕組みが必要。広く空いた**既存の木々の間隔を活かし、木々の近くでゆったりとした時間を過ごすことができる宿泊棟等**などの設置が考えられる。

現状

キャプションの存在が分かりづらく、また植物の詳細も記載されていない。

改善案

植物の詳細が学べる仕組みの導入を検討。

ボタン園



西洋シャクナゲ園



常緑広葉樹園



ツバキ園



落葉針葉樹園



常緑針葉樹園



熱帯植物館



■ 現状・改善案

現状

多数の熱帯植物が植わっているが、何か特定の植物に特化はしていない。

現状

上映室やテーブル等の設置されたスペースがあるが、植物の設置等も無く、他スペースとのデザインや雰囲気等の差が激しい。

改善案

熱帯植物館の中にある既存の植物の中から香りのあるバナラにスポットを当て、バナラの香りに溢れた新たな施設へのリニューアルが考えられる。その他、バナラを用いたスイーツ等を提供するカフェへの改修や、夜のライトアップの実施等による、泊まれる植物園ならではのサービスを検討。内部の暑さをどのように解決できるかが課題。

改善案

他スペース同様にバナラをはじめとした植物を設置、他との調和が取れるような空間への改修を検討。

熱帯植物館内部の様子



熱帯植物館内部の様子



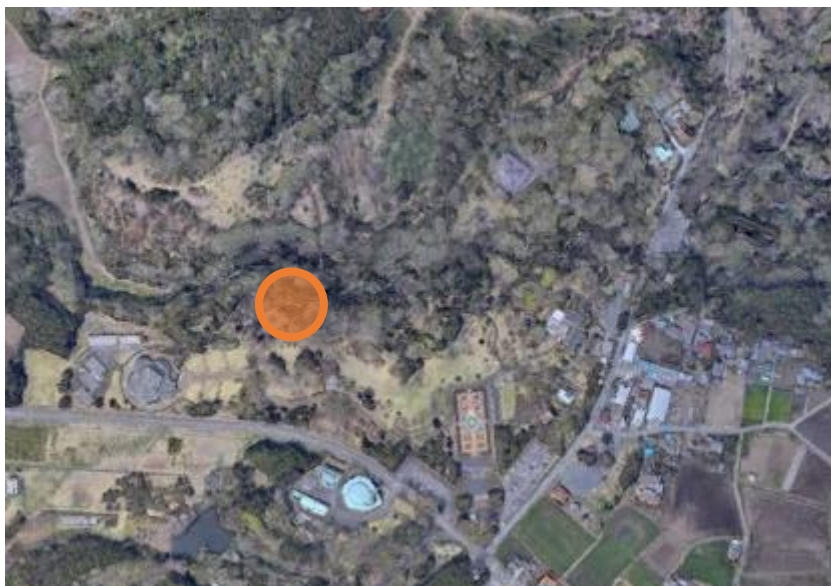
上映室



テーブル等の設置されたスペース



岩石園



■ 現状・改善案

現状

メインの動線から少し外れた道を上っていくと、開けた場所が現れるが、現状大きな岩がある以外は何も設置されていない。急な斜面があるため注意が必要。

改善案

他とは少し離れた場所にあり、他者の目線を気にせずにご過せる場所であるため、**キャンプスペースの新設等**が考えられる。また幹の太い木もあるため、**ハンモック等の吊り下げ**も可能であると考えられる。崖側は茂った木々を活かしつつ、景観が良くなる程度の剪定を検討。

大きな岩



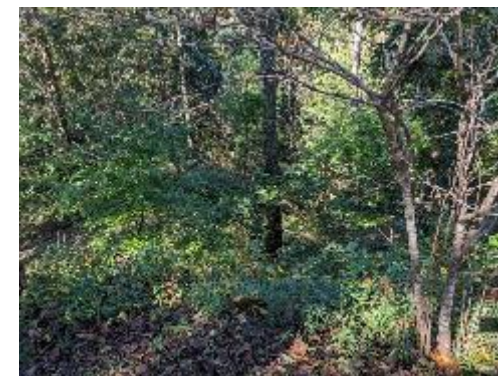
広くあいたスペース



幹の太い木



崖



バラ園周辺



■ 現状・改善案

現状

バラ園は他の植物や木々に比べても密度が高く植えられているように見える。しかし、バラは花が咲く季節に限られていること、また、そばのアーチも上までバラが伝っていない点に関して、改良の余地が見える。

現状

バラ園の近くは開放的な芝生広場が広がっており、象徴的な大きなクスノキが植わっている。

現状

クスノキ側から見た際、広い空に送電用鉄塔がかなり目立って見えている。

改善案

花が咲いていなくても美しく見える演出に関して要検討。またバラのアーチを完成させられれば、**ガーデンウェディング会場**としての活用も考えられる。

改善案

クスノキが象徴的に見えるため、バラとの関係性を活かした演出を検討。開放的な空間を生かし、**レストランによる飲食の提供など、くつろげる空間とすることが考えられる。**

改善案

世界観を崩さないよう、レストランの位置の検討など、**鉄塔を隠すような造作**や見えづらくする仕掛けの検討が必要。

バラ園とクスノキ



バラ園とバラのアーチ



鉄塔と芝生広場



県民の森・梅林・桜・森のカルチャーセンター



■ 現状・改善案

現状

県民の森に入場してすぐの料金所跡など、現在使用されていない建物が散見される。起伏に富む地形がある

改善案

使用できない建物等は撤去する。起伏に富んだ**地形を活かしたアクティビティ**の導入が考えられる。

現状

森のカルチャーセンター周辺は自然豊かで土地も広いが、楽しむためのコンテンツが少ない。

改善案

老若男女ともに楽しめるコンテンツを充実させる必要がある。四季折々の植物を見るなど、**森林散策**を楽しむことができる施設とすることは勿論、森という土地を活かした**マウンテンバイク**等のアクティビティの導入も検討。森のカルチャーセンターをアクティビティの起点として活用することを考え、軽食の販売も視野に入れる。その他ワークショップの開催地としての活用も考えられる。

料金所跡



桜山



芝滑り候補地（森のカルチャーセンター付近）



森のカルチャーセンター(外観)



森のカルチャーセンター(内観)



管理事務所



■現状・改善案

現状

展示室、会議室、キッズスペースがあり、展示室は近隣住民の方々の絵や生け花の展示等で使用されている。

改善案

地域のコミュニティの維持のためにも、現在の使用方法は続ける必要があることから、展示会等の現在の使用方法を継続したうえで、リニューアル後の施設の**運営事務所としての改修**を行う。また、学校や会社の研修時により使用しやすくするような改修も検討。
森のカルチャーセンターでも検討した**マウンテンバイクの出発点**としての活用も想定される。

外観



展示室



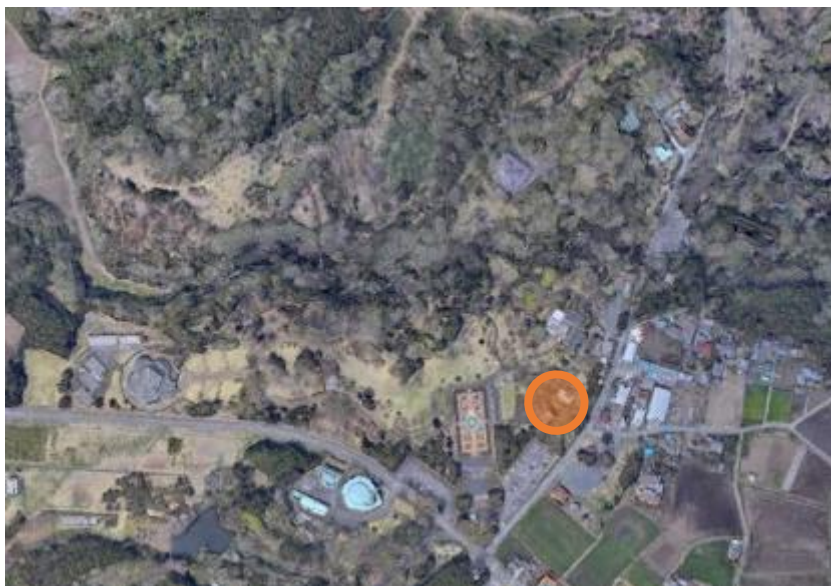
会議室



キッズスペース



緑の相談室



■ 現状・改善案

現状

建物自体は十分継続して利用している状態。周辺には造形植物園・野草園等がある。周囲に人が滞留できる空間が存在している。

改善案

周辺エリアにて**BBQスペースの設置**を検討し、緑の相談室は**BBQハウスとしての改修**をし、食材の提供や器具のレンタルを行うことで、他設備の利用目的で来場した家族連れなどが手ぶらでも楽しめるよう配慮する。

外観



外観



外観



きのこ博士館



■ 現状・改善案

現状

施設は比較的機能しているものの、一部展示が老朽化により破損している。植物園とは道路により分断されており、一体的なコンセプトを持たせることが難しい。

改善案

▶ **展示等の見直しを行い**、当面、展示施設として維持していくことが望ましい。



外観(茨城県植物園公式HPより転載)



展示物の破損状況



左写真の展示物設置時の状況



展示室 現状



展示室 現状



展示室 現状



展示室 現状

その他付帯する施設(回転扉及びその奥の道)



■ 現状・改善案

現状

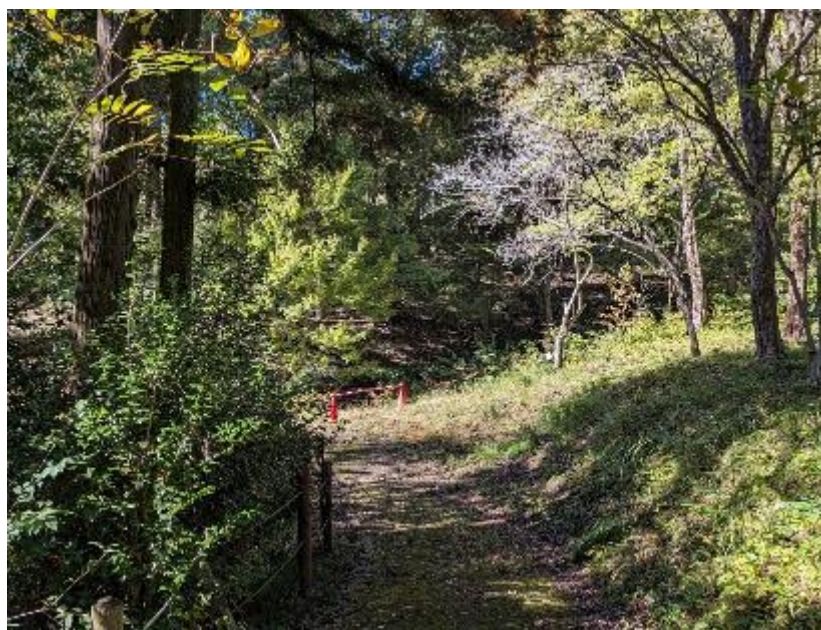
有料施設である植物園と分断されている。
回転扉の老朽化が著しい。

改善案

県民の森との往来経路を合計2カ所程度確保し、かつ回転扉を撤去して植物園と県民の森を自由に行き来できるように改良、一体的な施設として利用する。植物園を宿泊等の場としたうえで、県民の森は森林での体験活動との場として利用することとし、利用者が楽しめるアクティビティを設置する。



回転扉手前



立ち入り禁止となっている崩落個所

その他付帯する施設(トイレ)



■現状・改善案

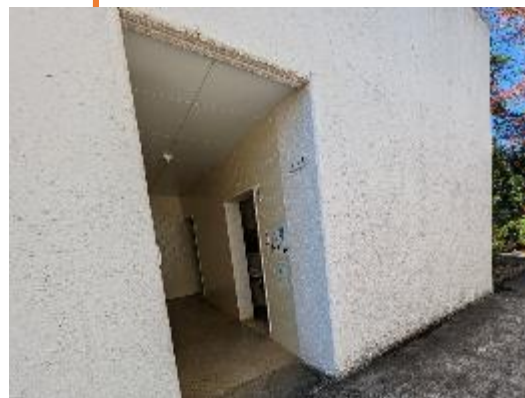
現状

屋外に数か所トイレが設置されているが、いずれも老朽化している。



改善案

植物園等の利用者の満足度及びリピート率の向上のためにも**トイレの改修**は必須である。
改修で対応できない場合は、撤去のうえ施設利用上必要な所に新設する。



現状分析のまとめ

(1) 施設の老朽化

整備後40年以上経過している施設が多く、現在稼働している施設も今後機能を維持するために大規模な修繕工事を行う必要があり、維持管理費の増大が見込まれる。

(2) 植物園の利用者数の低迷

植物園の利用者数のピークは平成7年度の約23万8千人。以降、施設の老朽化などにより、利用者は減少傾向にあり、令和4年度の度利用者数は約5万6千人と、ピーク時と比較して約8割減少。

(3) 県民の森の利用者数の増加

県民の森の利用者数は、平成以降は年間5～9万人で推移していたが、令和に入り毎年10万人を超えており、令和3年には過去最高の約12万7千人が利用。シニア層の手軽な散策コースとしての利用や、適度なアップダウンのある地形を活用したジョギングコースとしての利用が多く、コロナ禍において、三密を回避しながら活用できる場として、森林利用のニーズが高まったためと推察される。

【植物園及び県民の森の利用者の推移】

